

【泉区】令和 7 年第 1 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 7 年 2 月 3 日 午後 1 時 50 分 ～ 午後 3 時 17 分
場 所	泉区総合庁舎 4 階 4 A B C 会議室
出席者	<p>【 座 長 】 梶村 充 議員</p> <p>【議員：2 人】 麓 理恵 議員、横山 勇太郎 議員</p> <p>【泉区：33 人】 山口区長</p> <p>金子副区長</p> <p>羽田福祉保健センター長</p> <p>柿沼福祉保健センター担当部長</p> <p>阿部泉消防署長</p> <p>ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和 7 年度泉区個性ある区づくり推進費予算案について</p> <p>2 令和 6 年度泉区区民意識調査結果について</p> <p>3 横浜市松風学園再整備事業の進捗状況について</p> <p>4 泉区内における主な局事業等の進捗について</p>

発 言 の
要 旨

1 令和7年度泉区個性ある区づくり推進費予算案について

横山議員：資料1ページ、令和7年度泉区個性ある区づくり推進費予算案のキャッチフレーズ「～みらいへ進もう！地域とともに～」は、いつから使用しているか。

室町区政推進課長：令和3年度から掲げている。

横山議員：資料8ページ「区制40周年記念準備事業」について。令和8年に区制40周年を迎えるが、準備を進めていることはあるか。

室町区政推進課長：現在、区連会の皆様や、関係団体の皆様と意見交換を始めている。今後、実行委員会を立ち上げ、事業を進めていくことになると考えている。区内関係課とも連携して進めていきたい。

横山議員：資料19ページ「(5)災害時ペット対策事業」について。市会でも災害時ペット同行避難について取り上げられ、徐々に課題が認知されるようになってきた。これを今後、区で独自に進めるには様々な課題がある。例えば避難所を開設する際、ペットは避難者と同じ場所にするのか、専用の場所を設けるのか。ペット同伴可能な避難所は、ペット連れの方しか受け入れないのか。ペットの種類もいろいろあるが、対象をどこまでとするか。自分の飼い犬は好きだが、他の動物は苦手な人もいるだろうし、避難生活が続けば鳴き声が気になり始める人も出るだろう。そういった課題について局が指針を出すのか、区独自の考えで進めていくのか、どのようにするのか伺いたい。

村上生活衛生課長：災害時にペットと離れて生活できない方は一定数いる。ペットのことが心配で避難所に行くのをためらう方もいる。そうした方々も含め、どなたでも避難行動がとれるように、本市ではペット同行避難を推進している。避難所では一般の方と動線を分け、避難生活を送るのに支障のない場所を一時飼育場所として設定し、飼い主のグループの中で面倒をみてもらうことになっている。ペット同行避難のほか、能登半島地震を踏まえ、飼い主とペットが同じ場所で過ごす「同室避難」について、動物愛護センターがモデル事業を検討している。

横山議員：実際の現場でどういったことが起こるか、イメージが難しい。ペットを連れている避難者もそうでない避難者もお互い助け合う必要があるが、ペットを連れてくることにより発生が想定される課題について声を挙げていかなければと感じている。今後もしペット同伴可能な避難所等を分けていくのであれば、慎重に、計画的に進めていただきたい。

資料 35 ページ「(2)不登校・ひきこもり事業者活動支援事業」について。令和 5 年度の開設以降、ハートフル西部の状況はどうか。

谷こども家庭支援課学校連携・こども担当課長：ハートフル西部については、令和 6 年 4 月に常設拠点オープンした。運営団体には区の事業等でもご協力いただいている。ハートフル西部は、利用希望者が多く定員が埋まっているため、現在は個別にご相談を受け、教育委員会事務局の不登校の支援等をご紹介しますと伺っている。また、運営にあたり人手が足りず、苦勞しているとの話も聞いている。

横山議員：コロナ後、不登校児童・生徒が著しく増え、コロナ前の倍以上の 8,000 人超になった。今後もまた 1,000 人くらい増えそうとのことだ。いわゆるフリースクールのようなものについて、学校ではないため扱いが非常に難しい部分もあるが、子どもたちはあつというまに成長し、義務教育課程も終わってしまう。教育機会確保法もあるので、行政もいま以上に手を差し伸べ、何かしらの策を打ってほしい。

ハートフル西部運営団体の代表者の方にお聞きすると、利用希望者が多くなり、残念ながら、受け入れきれていない部分もあるようだ。最終的には予算の話になってしまうが、せっかく泉区にハートフルが設置されたので、ぜひ区からも教育委員会事務局に伝えてほしい。

麓議員：資料 3 ページ「(3)魅力体感プロモーション～ゆめが丘発～」について。先日、郊外部再生・活性化特別委員会でゆめが丘ソラトスを視察した。事業者の方は、地域に使っていただける場としてソラトスはある、ということを強調されていた。資料にも「ゆめが丘ソラトスを活用し…」と記載がある。施設外の空間だけでなく、施設内部の活用について考えを伺いたい。また、地域の方々は、様々なイベント等で施設が利用できることをあまりご存知ないのではないかと思いますので、広報に力を入れていただきたい。

室町区政推進課長：令和 6 年 7 月 22 日に「ゆめが丘エリアマネジメント協議会」が設立された。協議会は、ゆめが丘ソラトス内や周辺の拠点を活用し地域のハブとなる機能を付加するとしている。区としても、この場所を新たな拠点として捉えており、エリアマネジメント協議会や相鉄グループとも意見交換を始めている。

今年度泉区では、ソラトス高架下で泉区の魅力発信イベントを開催したり、「SORATOS Room201」で福祉の作品展を行った。3 月には、区内で活動する事業者や大学等の様々なステークホルダーと連携し、1 階

の「Live Kitchen SORATOS」で日頃の活動を紹介するイベントを実施する。その際、併せて施設内見学も企画している。区としても、ゆめが丘ソラトスを周辺住民の方だけでなく区全体で有効に活用してもらうため、取組を進めたい。

麓議員：エリアマネジメント協議会については、他の地域や団地等でも組織され、活動の様子も聞いている。大変期待している。

また、交通局が令和7年度に下飯田駅の外壁等改修工事を実施する。併せて、下飯田駅周辺の用地活用も予定されている。このことについて、泉区としての考えはあるか。

室町区政推進課長：交通局とは今後具体的なやりとりをしていくことになると思う。どのような活用がよいか、意見交換等していきたい。

麓議員：下飯田周辺の活性化につながることを期待している。

資料17 ページ「防災対策事業」について。昨年実施した区内一斉防災訓練について、区長として把握している課題などがあれば伺いたい。

山口区長：今回、地域防災拠点と泉区災害対策本部との情報受伝達訓練を行った。長年同じ方が運営委員長を務められている拠点と、委員長が単年度交代制であったり、コロナ禍で活動が停滞した拠点とではレベル差があることを昨年度から感じていたが、情報受伝達訓練においてもそれが見られたと感じている。

麓議員：まず各拠点の底上げをする必要があり、それは本来地域で取り組んでいただくことだが、区としても区内の拠点全体を見渡し、活動が落ち込んでいる拠点等については支援してもらいたい。

また、一斉訓練で防災無線を担当された方から、各拠点から情報が入ってくる際、順番待ちになってしまったとお聞きした。今回の訓練は、情報受伝達が主な目的だったと思うが、感じた課題はあるか。

釜谷総務課長：情報受伝達について、ご指摘いただいたとおり、順番待ちになってしまった等、いろいろな課題がアンケート結果でも出ている。今回の訓練には拠点の委員の皆様だけでなく、市の職員である地域防災拠点の参与や動員職員も参加した。職員も年度ごとに入れ替わりがあり、初めて通信機器に触った職員は不慣れだったり等、機器の使い方ひとつとっても、実際に訓練をやってみたからこそ見えた課題がある。今回の振り返りとして、次年度は情報受伝達が確実にできるようにしていきたい。また、今回の訓練には14拠点に参加いただいたが、区内には全22拠点あるので、より多くの拠点の皆様にご参加いただきながら、

確実に取り組んでいきたい。

麓議員：実施結果がまとまったら、資料をいただきたいと思う。一斉訓練は毎年実施しなくてもいいと思っている。一斉訓練を実施しない年は各拠点の底上げに力を入れてもらい、3年に1回程度課題に沿って一斉訓練を行うということを泉区で続けてもらいたい。

資料32ページ「いずみっこ子育て支援事業」について。拡充事業として様々な取組をすることだが、33ページ「妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援充実事業」も含め、これらの事業を実施した効果をきちんと見ていく必要があると考えている。局の事業はデータドリブンプロジェクトにより検証している。泉区の子育て支援関連の取組では「地域子育て支援拠点親子の居場所充実事業」や「パパ・ママ子育て支援事業」等があるが、どの事業にどのような人たちが参加しているから今後はこういう事業を打っていくというような検証と整理もそろそろ必要ではないか。取組を重ねた方がいい部分もあるかとは思うが。何か考えはあるか。

中澤こども家庭支援課長：子育て支援拠点は集団の場でもあり、そういった場が苦手であり来ていない方もかなりいらっしゃる。区民意識調査では、子育て支援に関する場がもっと欲しいという声もあったので、子育て支援拠点の機能を強化する必要があると考え、7年度はサテライトで拠点を設ける。「パパ・ママ子育て支援事業」は、個別に顔を合わせ、出産前から助言していくなど、どちらかというと個別の支援になる。取組内容として多少重なる部分もあるかもしれないが、個別支援には相当力を入れていかないと子育ての力や子どもが育っていく力が育まれないので、しっかりやっていきたい。

麓議員：個別の支援を行う理由はよく分かる。どういった課題に着目するか、それに着目した理由も様々あると思うが、区内全体を限られた予算で対応していくためには、どのようなやり方が一番効果的なのか、泉区として考えてもらいたい。

梶村議員：空家の問題について。空家で困っている地域は多いと思うが、そういった地域がどれくらいあるのか聞きたい。また、もし空家が出た場合にはどのような対応になるのか。

室町区政推進課長：ご指摘のとおり、泉区内にも多くの空家がある。平成27年度から令和6年8月末までで解決済の案件も含め約200件程度の相談を受けている。相談を受けたら、区職員が現地調査をし、空家か否

か、またその程度を目視で確認する。空家と判明したら、所有者の自主的な管理を促すため、通知文等を所有者に送る。すぐに反応していただけない場合もあるが、期間をおいてあらためて通知を送る等の対応をしている。

梶村議員：令和7年度、建築局で空家の総合案内窓口を設置するそうだ。不動産事業者等とも連携し、相談体制を強化するということなので、そのような局の取組をぜひ区としてもPRしてもらいたい。

横山議員：資料7ページ「広報よこはま発行事業」について。広報よこはま泉区版の編集や記事の構成は区で行っているのか。

室町区政推進課長：区の職員が行っている。

横山議員：7年度予算では公園トイレの洋式化があり、対象のトイレは140か所程度と聞いている。トイレに関連して、多くの子どもたちは和式トイレを使えない。発災時は和式を使用せざるを得ない場面も想定される。広報よこはまは、祖父母世代の読者が多いので、和式トイレについて掲載すれば、孫は大丈夫かなと、練習のきっかけにつながっていくと思う。阪神・淡路大震災時はまだ和式がたくさんあった。能登半島地震、東日本大震災なども、地方なので和式が残っている。横浜と東京は洋式が普及しており、和式をほとんど見たことがない子もたくさんいる。都市部の特殊な事情だと思うので、これについて広報よこはま泉区版に掲載することも検討してほしい。これは要望とさせていただく。

2 令和6年度泉区区民意識調査結果について

特になし。

3 横浜市松風学園再整備事業の進捗状況について

特になし。

4 泉区内における主な局事業等の進捗について

横山議員：「ハマッコトイレ」について。トイレを設置する学校のプールの水を使用するのか。全市的に同じ仕組みか。

丸山泉土木事務所副所長：基本的には、プールの水を使用する仕組みとなっている。

横山議員：そのことを知らず、プールの水を溜めていない学校もあるようだ。全市的なことだが、泉区ではそのようなことがないように徹底して

いただきたい。

横山議員：道路の白線について。消防署の前、とりわけいずみ野消防出張所前の白線がかなり消えている。署長の所感を伺いたい。

阿部泉消防署長：消防車等が緊急出場する際には、基本的には職員が車を停めるなどして安全に配慮しているが、ゼブラゾーンはあってしかるべきなので、よく調整させていただく。

丸山泉土木事務所副所長：順次対応させていただくので、ご理解いただければと思う。

5 その他

特になし。